



久保田由夫 ほっと通信



NO. 77
2018. 5. 13
【部内資料】

発行 くぼたよしお事務所 ☎42-6361 fax 42-5630

<久保田由夫のブログ・フェイスブック・ホームページもご覧ください>

日本共産党



<季節の写真>

紫色と白色のフジが満開です。狐塚地区の八十八夜祭にて（5月3日）

◆土屋陽一市長について聞かれることがある。相手によって言い方を変えている。(笑) これまで、12年間弱にわたり、土屋陽一さんとは議員という立場で、同じ方向から市政の課題をみてきた。市議会議長の職にあった時の挨拶では、中国のことわざ?で普段使わないようなことも聞くこともあり、造詣の深さを感じた。◆丸子町時代には、同じ自治会の滝沢康さんが町長になり、半年間ぐらいは「町長」ということに慣れなかったことを思い出した。今回のそのような気持ちもある。◆市長の権限は市議会（市議）に比べて絶大であり、土屋市長もその責任の重大さを日々感じられていることと思う。制度の上では、予算の調製権、予算案提出権、執行権、人事権などがある。対外的にも、上田市政を統括し、代表している。◆下段の懇談項目にあるように、市長が交代したこのタイミングを活かして、市政の重要課題、今ある地域資源を活かす課題、将来の上田市政を見通しての未来志向型投資などに、土屋陽一市長なりの手腕を発揮してもらい事を期待している。◆当然ですが、共産党市議団としても一議員としても、調査研究した内容を提案していきます。

土屋陽一市長と共産党市議団が市政の重要課題3項目で正式懇談（5月2日）



5月2日、市長室において、土屋陽一市長と日本共産党上田市議団が公式に懇談しました。

時間が限られていましたので、つぎの3項目について党市議団から説明。市長からご意見をお聞きしました。

（資源循環型施設について）

市民生活に欠かせない一般廃棄物（ごみ）処理のため、上田地域広域連合がすすめている資源循環型施設の早期建設は、上田市にとっても最重要課題です。

新市長への交代のタイミングを活かして、これまでの取り組みを検証した上で、新市長の決意を内外に表明、推進体制の充実、関係者へのアプローチを継続的、系統的にすすめること。

（大規模学校給食センター計画について）

共産党市議団では、昨年11月から今年にかけて「市民アンケート」をとりました。回答をよせてもらった「大規模学校給食センター計画について」の内容を分析すると「リスクの回避」「食育の重視」「地産地消の推進」などの視点から、1万食規模の大規模学校給食センター計画には慎重・反対が多数を占めています。

土屋陽一市長も、市長選マニフェストでは「学校給食については現在の自校給食校をモデル校として、自校単独調理方式の可能性を研究・検討、玄米の使用も吟味、食育から生きる力を育成」と主張されました。したがって、「子どもは地域の宝、すくすく育つ安心子育てのまちづくり」を具体化するためにも、1万食規模の大規模学校給食センター計画の大幅見直しを進めること。

（交流文化芸術センターについて）

土屋陽一市長は、「サントミュージゼの運営費の検証」を今すぐ着手したいこととされています。（広報うえだ NO91・平成30年5月1日付）

市議会でも、交流文化芸術センター管理運営の見直しについては、「本センターは、『育成』を基本理念に掲げ、市民に愛され、市民とともに歩む文化・芸術の拠点施設として実績を残し、役割が定着してきたと認められるが、当初の想定を大きく上回る水準の運営管理費用が支出され続けていることが懸念されるので、収支を改善する必要がある。よって、開館3年を経過することから、事業評価を行った上で類似施設の運営管理について調査し、事業費、施設使用料、人件費等について比較検証等を行い必要に応じて見直しを行うこと。」とされています。

（平成29年9月議会における総務文教分科会の附帯意見）

市議会の附帯意見等を踏まえた検証をすすめ、必要に応じて、交流文化芸術センター管理運営の見直しを行うこと。

以上

